

科目名	社会科学Ⅱ Social Science II			担当教員	大西正泰 (窓口教員；河野通弘)		
学年	5年	学期	通年	科目番号	09104	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義・討論など	履修条件	選択		
学習目標	社会科学の目的は、社会の題材を使って、分析し、自らの幸せを得るための解法を手に入れることにある。本講義では、 1) 経営学の分析ツールを学ぶ。 2) 実際のビジネスの問題について1) を用いて討議し、解法を学ぶ(ケースメソッド)。 3) 1) 2) を通じて、自分の課題(就職など)を分析し、解法を出すことができるようになる。						
進め方	本講義の進め方は、身近な問題(例「なぜAKB48は売れたのか?」)について分析ツール(例「ロングテールの法則」)を用いて討議し、解法を導いていく。そして、自分の課題(例「自分ブランドをどう組み立てていくか」)に応用するという進め方を主とする。*また、アンケートによって、学生が学びたい内容について、授業に加えていく。						
学習内容	学習項目(時間数)			合格判定水準			
	1. 社会科学は幸せのツールである(2) (1) ガイダンス/「～」を分析せよ (2) 分析ツールは変える/「AKB」分析 2. 分析ツール【I】(5) (1) 社会科学の作法/「12人の怒れる男」 (2) 経営の目的/儲けと幸せの二元論 (3) 歴史分析/「スティーブジョブズ」編 ----- [前期中間試験](1)			1) 分析ツールを理解する。 2) 発言をする。 3) 分析ツールを用いて、課題を解くことができる。 の以上3点を合格判定基準とする。			
	3. 分析ツール【II】(2) (1) SWOT分析/4象限を恋愛に応用する (2) ライフサイクル分析/人生景気曲線 4. 分析ツール【III】(5) (1) 作品分析～宮崎駿論I, II～ (2) 会社分析～NPO法人フローレンス～ (3) 会社分析～リブセンス～ (4) 株式投資の分析ツール ----- 前期末試験(1)			1) 分析ツールを理解する。 2) 発言をする。 3) 分析ツールを用いて、課題を解くことができる。 の以上3点を合格判定基準とする。			
	5. 議論をツール化する(3) 1) 議論の作法～マイクロディベート～ 2) マイクロディベート実践 ケース「地球脱出」 6. スーパープレゼンテーション(2) (1) TEDxの与えたプレゼンの力 (2) プレゼンの作法 ----- [後期中間試験](1)			1) 分析ツールを理解する。 2) 発言する。 3) 分析ツールを用いて、課題を解くことができる。 の以上3点を合格判定基準とする。			
	7. プレゼン実習“四国の地域再生”(5) (1) 商店街復活/丸亀町モデル (2) 芸術は観光/直島&神山モデル (3) 特産物一点突破/馬路&上勝モデル (4) 道の駅入り口型/内子&四万十モデル 8. まとめ～機会を作り機会によって自らを変えよ(2) ----- 後期末試験(1)			1) プレゼンツールを理解する。 2) グループで議論し、発言、まとめる。 3) 課題と解法についてプレゼンすることができる。 の以上3点を合格判定基準とする。			
	評価方法 評価は、テスト(70%)、講義での発言(10%)、レポート(20%)で行う。						
	学習・教育目標との関係 (A)広い視野と技術者としての倫理(倫理)						
	関連科目 公民Ⅰ(2年) → 公民Ⅱ(3年) → 社会科学Ⅱ(5年)						
教材 ビデオ教材、テーマごとの資料によって行う。							
備考							